

平成 18 年 3 月

試験研究業務月報



ウイルスチェックを実施するための苗の養成状況
(左上は「新丹波黒」のウイルス罹病個体)

小豆及び黒大豆の生産安定に向けて

小豆や黒大豆などの豆類は、種子伝染性のウイルス病感染により収量が5～25%減少します。そこで、農家にウイルスに感染していない健全な種子を供給し、小豆「京都大納言」及び黒大豆「新丹波黒」の生産安定を図るため、両品種の原種及び採種圃産種子のウイルスチェックを実施しています。

本年は、原種（6サンプル）、採種圃種子（40サンプル）について、農業資源研究センターの協力を得ながらウイルスチェックを実施し、種子としての可否を判定しました。

農業総合研究所